

認定医審査ポスター | 認定医審査ポスター

認定医審査ポスター

Fri. Jun 22, 2018 9:50 AM - 4:50 PM ポスター会場 (7F イベントホール)

ポスター展示 : 9:50~16:50 (縮小版を展示)

[認定P-09]早期の咬合回復による摂食の改善を NSTによるアセスメントで 評価した症例

○栗原 茂¹ (1. 医療法人社団有信会呉記念病院歯科)

【目的】

本院では NSTのアセスメントに口腔状態、摂食機能、栄養状態などの項目を包括的に評価する「KTバランスチャート (KTチャート)」を用いている。今回、歯科介入により口腔環境が改善し、リハビリテーションも良好な経過をみた症例について報告する。

【症例および処置】

患者は85歳女性、左視床部出血の後遺症のリハビリテーション目的にて当院回復期病棟に入院した。後遺症として右片麻痺、失語症を認めたが、嚥下機能に問題はなかった。既往歴として軽度認知症を認めた。主訴は歯が動揺して食べ難いとの訴えであった。初診時の口腔内は慢性辺縁性歯周炎、不良補綴物を多数認め、咬合崩壊を来していた。初診時の KTチャートは口腔状態：1、捕食・咀嚼・送り込み：4、活動：3、摂食状況レベル：4、食物形態：4、栄養状態：3であった。FIMは45であった。治療は主訴である動揺歯の固定をまず行い、ブラッシング指導の後、早期に咬合を確保する目的で上下部分床義歯を新製した。その後、順次不良補綴物の除去と残存歯の処置を行い、適宜義歯の追補、修理を行った。

【結果と考察】

主訴が改善された時点で患者の満足が得られ、食思が回復し、やる気につながった。退院前の KTチャートは口腔状態：5、捕食・咀嚼・送り込み：5、活動：4、摂食状況レベル：5、食物形態：5であり、多くの項目で改善した。FIMは59であった。体重は身体活動性が改善したためか、初診時の48.3kgから退院前には47.1kgと減少を示したが、血清アルブミン値は初診時3.2g/dlから退院前3.3g/dlと若干改善した。義歯を作製し、食べられる口腔環境を作れた事がリハビリテーションの良好な経過につながったと考えられる。